

縁結びの木

2008.12.11

その小さな小鳥は、ハナミズキの実が 大好きでした。

枝に たくさんの実をつけた ハナミズキに、毎朝 ご挨拶して、その実を いただきます。

ハナミズキさん、おはよう！

今日も、わたしの食べる分だけ、実を ちょうだいね。

あら、小鳥ちゃん、おはよう。

ええ、どうぞ。

あなたが 元気に飛んでいる姿を見ると、私も 元気になるわ。

そう言って、ハナミズキは、小鳥が 首から さげている 小さな袋に、大事な実を、いくつか 入れてあげるのです。

ハナミズキさん、ありがとう！

小鳥は、ハナミズキ から 実を ちょうだいすると、ぴょんぴょんと跳ねるように 飛んでいき、海辺へ行きます。

大きな岩の陰にある 小さな岩に座って 海を見ながら食べるのが、ハナミズキの実の いちばん美味しい食べ方なのです。

ある日、このお気に入りの場所で 小鳥が 実を食べていると、見たこともない魚がやってきて、ぴょんぴょん 飛び跳ねました。

あら、お魚さん。

お魚さんも、この実を、食べたい？

ううん、ぼくは 木の実は 食べないよ。

きみは、いつも ここで 木の実を 食べているんだね。

ええ。
この場所で 海を見ながら 食べるのが、好きなの。
でもね……

でも、どうしたの？

わたし、ハナミズキさんから 実をもらうばかりで、
なにも お返しできないのよ。
なんだか、悪い気がするの。

ふうん。。。
なら、ぼくに まかせておいてよ！
その代わり、きみは これから 11日間、まいにち ここへ来るんだよ？

まあ、お魚さん、ほんと！？
ええ、わたし、まいにち、来るわ！

それから まいにち、小鳥は この岩へやってきて、
魚と会うようになりました。

魚は ひとしきり 小鳥と おしゃべりすると、
まいにち かならず、木の実を1つ、小鳥から もらって、
海の底へ 帰っていくのでした。

雨の日も、風の日も、
小鳥は この岩へやってきました。

海が どんなに荒れていても、魚も 小鳥に会いに やってきました。

そんなふたりの10日間は あっというまに過ぎ、
11日めに 姿をあらわした魚は、どこか 沈んでいるように 見えました。

お魚さん、おはよう！
でも、今日は なんだか 元気がないみたい。どうしたの？

うん。
ハナミズキさんへのプレゼントが、できあがったんだ。。。

まあ、ほんと？
お魚さん、ありがとう！

うん・・・
ぼくの姉さんに頼んで、つくってもらったんだよ。

まあ、あなたのお姉さんに？

うん。
きみには 運べないものだから、明日の夜明け前に、
姉さんが ハナミズキさんに 届けてくれることになってる。

ああ、嬉しいわ。ハナミズキさん、喜んでくれるかしら。
お魚さん、ほんとに、ありがとう！
そのプレゼントっていうのは、なあに？

きみも、明日の朝になれば、わかるよ。

魚は、その後も なにか言いたげに 口を ぱくぱくさせていましたが、
どうしても 言葉にすることができません。

沈んだ表情のまま、さよならも言わずに 海へ 潜っていきました。

小鳥は、そんな魚の様子に 小首をかしげながらも、
ハナミズキへのプレゼントのことで すぐに 頭がいっぱいになり、
その夜は なかなか 寝つけませんでした。

夜明け前。

海から、そっと 姿をあらわしたのがありました。

そのそばでは、あの魚が、ぴよんぴよん 飛び跳ねています。

じゃ、姉さん、頼んだよ！

人魚は、にっこりと笑って 魚に手をふり、陸へと 上がりました。

人魚が 陸へ上がると、彼女とともに 海水が満ちていきます。
人魚ひとりの通り道分だけ、細長く 海と陸とが つながります。

人魚は、こうして 海を従え、
小鳥がいつも 実をもらっている ハナミズキのもとへ やってきました。

思いがけないプレゼントに、
ハナミズキは 眠い目を こすりながらも、とても 喜びました。

そして、人魚から 贈り主を明かされると、さらに 笑顔になり、
枝を わっさわっさと ゆすりました。

その後、人魚は ハナミズキに なにかを そっと耳打ちすると、
夜が明ける前に、静かに 海へと 戻って行きました。

ハナミズキは、ほんわりと温かくなった自分の胸に手をやり、
そっと 人魚を 見送りました。

夜が明けました。

なかなか眠れなかったせいで ちょっと 寝坊してしまった小鳥は、
あわてて ハナミズキのところへ 飛んでいきました。

ああ、なんてことでしょう。

ハナミズキの元へ届けられた プレゼントは、それは それは 素敵でした。
小鳥の大好きなハナミズキに、とても よく 似合っていました。

小鳥は、ハナミズキに 抱きつきました。
ハナミズキも、とても 嬉しそう。

ひとしきり はしゃぐと、小鳥は もじもじ しはじめました。

あのお。ハナミズキさん。
わたし、お魚さんに 会いにいかないと……。

ハナミズキは、にっこりしました。

そうなのね。
小鳥ちゃんも、お魚くんのことを 好きなのね。

小鳥は、あわてて 小さな羽根を ばたばたさせました。

そ、そ、そなんじゃないのよ？
素敵なプレゼントのお礼を言いたいだけ……

ハナミズキは、枝を さわさわと かきあつめ、
もう一度 小鳥を抱きしめると、小さな声で 言いました。

ゆうべ、人魚のお姉さんが 教えてくれたんだけど・・・

お魚くん、約束の11日間が終わってしまったから、
小鳥ちゃんが もう会いに来てくれないんじゃないかって、
心配しているんですって。

そ、そ、そんなこと！
ハナミズキさん、わたし、行かなきゃ。

真っ赤になった 小鳥は、
ハナミズキの返事も待たずに 飛び立ちました。

小鳥ちゃん、ありがとう！

ハナミズキは、にこやかに 小鳥を見送ると、
そっと 胸に 手をやりました。

ハナミズキの胸で
朝日を受けて きらきらと輝き、ゆれているのは、
赤い珊瑚のネックレス。

ゆうべ、人魚が 届けてくれたのは、
このネックレスだったのです。

小鳥が せっせと運んだ ハナミズキの実は
人魚の魔法で 珊瑚に生まれ変わり、
母の胸へ 帰ってきたのでした。

そのころ、海では。

大きな岩の陰にある 小さな岩のすぐ下で、
人魚の弟が、空を見上げていました。

魚の ときどきするハートが 伝わっているのか、
波は、いつもより 大きく ゆれているようでした。